

松寿院の安政の川直しの碑は、種子島家第 23 代久道の夫人松寿院の業績をたたえ、平山の人々が、万延 2 年（1861）に大浦川の旧河道と新河道の分岐する土手の上に建てたものです。

松寿院は天璋院篤姫の伯母にあたり、種子島の塩不足を憂いその解決のため、安政 3 年（1856）に平山大浦に塩田を開拓した人物です。

当時、平山から熊野へ行く道は大浦川の潮が満ちると、人も馬も通行することは困難でした。

また、満潮になると海から潮が入り農作物も甚大な塩害を受けしていました。松寿院は、この潮による害の原因が、大浦川が蛇行しているからだと考えて、川幅を 10 m に広げ、長さ 200 m にわたるまっすぐな川を新たに作る工事を行いました。

この工事では、川を掘りあげながら土手を築いたので、その土手は新しい道路となり人馬の往来も便利になったといいます。この蛇行していた昔の川を古川といい、今まっすぐな川を安政川あるいは新川といいます。また、この堤は安政土手と名づけられました。この工事によって、満潮時の洪水の害を防ぐことができるようになり、潮入りで荒れ田であったものが、立派な美田となりました。

この川直しの大事業は、安政 4 年（1857）正月から始まり、春の農繁期はしばらく休み、6 月に再開して 10 月はじめに完成しました。従事した人夫は延べ 1 万 6485 人、かかった費用は 285 両（松寿院のお手元金）でした。

その年の 12 月、川直しの大工事が無事完成し願いがかなえられたことに感謝して、松寿院は、祠をつくり宝光権現と名づけ祀りました。また翌年の安政 5 年（1858）2 月には、水天之碑を建立しています。



松寿院の安政の川直しの碑と水天之碑